

科技高リポート ～I Love 百姓～

Vol.8

課題研究の成果を発表 ～課題研究発表会の様子～

「課題研究」とは、各学科の3年生が身近にある課題から研究テーマを選定し、それを解決するための方法について調査・研究した成果を活動記録簿・プレゼンテーションとしてまとめ、発表を行う授業です。19日は農業科（生物資源科と生活福祉科合同の発表会）、21日は全校生徒の前で各学科から選抜された優秀なグループの発表が行われました。

19日の発表では、13のグループが日本農業クラブ連盟が主催する「プロジェクト発表会」の形式に則って発表を行いました。コロナウイルスの感染拡大のあおりを受けて、満足にリハーサルも行えませんでした。研究成果を後輩達に伝えよう3年生はマスク越しに大きな声で発表してくれました。

予定では、各学科から選抜されたグループによる全校課題研究発表会を21日に行う予定でしたが、新型コロナウイルス蔓延拡大防止の観点から中止となりました。



運営の生徒達。発表時間も計測します。



発表の態度。堂々としています。



聞く態度も随分成長しました。



発表の評価中。成績に関わるので真剣です。



審査員の先生からの質問にも丁寧に答えます。



質疑応答も活発に行われました。

各種検定試験の合格率がすごいことに！

生物資源科・生活福祉科の学習内容の定着度が試される各種検定試験に今年も多く生徒が挑戦しました。今年は、開校初年度にふさわしい高い合格率を達成することができました。先生方の指導がわかりやすいことでもあります。受験した生徒達が補習や復習に努められるようになってきたことが一番の理由だと思います。

生物資源科では、12月に1・2年生50名が「農業技術検定3級」の資格試験に挑戦し42名が合格するという記録的な成果を残しました。

生活福祉科ヒューマンサービスコースの3年生15名は、1年間「介護初任者研修」を受講しました。補習や追試験を受ける事も多く例年以上に苦戦を強いられましたようですが、全員が無事終了しました。

生活福祉科ライフデザインコースの生徒達は、年末に食物調理技術検定と被服製作技術検定（ともに1年生3級、2年生2級）に挑戦しました。結果が届きしだい、この紙面で紹介したいと思います。

<取得した人達の感想をどうぞ>

◇宮腰昇之介くん（2年4組）農業技術検定3級合格

「あまり手応えはなかったですが、合格証をもらった時はマジでうれしかったです。」

◇信太ひまりさん（2年5組）農業技術検定3級合格

「受かると思っていなかったので合格証をもらってすごくうれしかったです。」

◇諏訪歩夢くん（3年5組）介護初任者研修修了

「補習や追試験のたびにお世話になった先生方に感謝したいです。」



良質な白神山つどを次々掘り上げる工藤さん



あきた白神トピックス

「一足早い春の香り」届けたい！

山つど部会（桜田和浩部会長）の部会員らが所有するビニールハウス内では、昨年11月末頃から伏せ込まれた「白神山つど」が床土から次々と顔をだし始め、「一足早い春の香り」を漂わせながら、生産者らによる収穫作業が1月中旬からスタートしました。販売課によれば各生産者の収穫作業は例年よりも1週間程遅れ気味でのスタートとのこと。その要因として、床土を加温するために設置した加温装置では十分に加温しきれないほどに、年末年始にかけて低温気候が続いたことと、観測史上最高積雪を記録した降雪により、生産者らがビニールハウスに降り積もった除排雪作業に追われ、収穫作業が後手に回ってしまったという分析です。

能代市二ツ井町で「白神山つど」の栽培歴40年を超える工藤宏さん(79)は4棟のビニールハウスに昨年末「白神山つど」の株を伏せ込みました。工藤さんのビニールハウス内では長さ40cm程に育った「白神山つど」が次々と収穫適期を迎えています。工藤さんは「いち早く消費者の皆さんに、春の味覚を堪能してもらいたい。ビニールハウスが倒壊してしまっただけでどうしようもない。作業分担しながら良質な「白神山つど」を出荷していきたい。」と話し、妻のアキさん(77)と従業員3人態勢で収穫作業と除排雪作業の二刀流に励みます。

「白神山つど」の名称は平成19年に商標登録され、北海道や関東首都圏の市場を中心に出荷され、シャキシャキとした小気味良い食感と、ほろ苦さ、春の味覚として各市場からも高評価を得ております。

今年度JAでは、出荷量約90トン、6117万円の販売を計画しています。



1本1本丁寧に収穫する大高部会長

茎ぐんぐん伸びて、収穫適期迎える！

アスパラガス部会（大高勝信部会長）では、秋田県内でもトップクラスの生産量を誇る伏せ込み促成栽培によるグリーンアスパラガスの収穫作業が最盛を迎えています。今期のグリーンアスパラガスは夏の高温や干ばつの影響で生育の遅れが発生しましたが、稲刈り後から圃場に雨水が十分に供給されたため、株の肥大が進み、昨年末同部会が開催した株品評会では、根重の平均は1481.3gと昨年並みまで回復しました。11月上旬から株の掘り取りが盛んに行われ、端境期を狙った出荷作業は3月末まで続きます。

大高部会長は「白神山ブランドのグリーンアスパラガスは瑞々しく甘みが強いのが特徴で市場からも高い評価を得ている。多くの消費者に丹精込めて育て上げた白神山ブランドのグリーンアスパラガスを是非とも食べてもらいたい。」と胸を張ります。

昨年度、生育不良により全体的に細物傾向の出荷が多かったこともあって、販売高3055万円でしたが、今年度は生産者一丸となって3267万円（前年度対比113.5%）の販売高を目指します。